

令和元年第 416 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録（2 日目）

（令和元年 6 月 5 日 午後 2 時 55 分）

●議長（森山木の実） 会議を再開します。

通告の 5、佐藤博一議員。

- 1 高齢者等移動困難者への対応は
- 2 産業及び地域振興について
- 3 新教育長の教育理念

議席番号 3 番・佐藤博一議員。

◆3 番（佐藤博一） 議席番号 3 番・佐藤博一でございます。通告書のとおり 3 つの質問をしたいと思っております。まず最初に、最近の報道で日々、今日も福岡で大きな事故があり、老夫婦がお亡くなりになった。また、東京の池袋での事故に端を発し、都内では免許証の自主返納が相当進んだと。そういった毎日我々テレビなりインターネットなり新聞なり、そういった交通事故の話を目にする非常に辛い毎日であります。そういった報道がされるということは、住民の皆様も、やはりそこに目が行ってしまいますし、また私も然りでございますが、免許証を持っている今日の高齢者等というふうに、非常にご老人のことを言うつもりはありません。我々免許証を持っている者すべてが、やはりこういったことに遭遇するのではないかと、自戒の念もありますし、また、都市部と信濃町、こういう田舎の部分での車のあり方、また、そういったものの違いは重々判っておりますが、午前中同僚議員が、そういった交通事故等で、まずディフェンスのお話し、特にお子様、児童、生徒、そういった子ども達をどう守っていくかということ、町もちゃんとやってください的な質問をしました。私は今度、ではそういったお子様たちに、事故を起こさないために、運転している側の話を今日はしたいと思っております。まず町長にお伺いしたいのですが、こういった交通事故等の報道がたびたびなされているわけですが、こういった中で、町長も車を運転されるわけでございますけれども、所見をお伺いしたいと思います。

●議長（森山木の実） 横川町長。

■町長（横川正知） はい。今佐藤博一議員さんから、高齢者の交通事故に関わっているようなお話しも頂戴したわけですが、本当に最近、しかもこの重大事故に繋がる高齢者の事故が多いなというふうに、私自身も思っております。これは 1 つは一般的に、高齢者の比率も高まっていると、このこともあるのかなというふうに、私は思っておりますが、それにしても加害者、被害者ともに、大変残念な結果を招いているということについては、私自身も高齢者の仲間でございますし、同世代としても、大変残念なことだなというふうに思います。1 つはそれぞれ交通ルールだけで、果たしてそれは守

令和元年第 416 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録（2 日目）

れるのかと、身体的な、特に高齢者というふうに定義づけた場合に、身体的な機能の低下、あるいは病的な内在しているもの等々も影響するのかなというふうに思いますが、いずれにしても結果を見れば、そういう事故に繋がっているということは、大変残念なことだなというふうに思っております。以上です。

●議長（森山木の実） 佐藤博一議員。

◆3番（佐藤博一） はい。ありがとうございます。残念という、今のこの高齢化社会の中での、特に私ども信濃町の場合は、公共交通がバスからデマンド、そういったものに替わったとはいえ、やはりみなさん移動手段を求めているわけでございます。その移動手段は、一番はお年を召してきた場合は、病院に通う、役場に来る、金融機関に行く、お買い物に行く。様々な、やはり自分の生活を成り立たせるために、車が必要です。ここでちょっと総務課長にお伺いしたいのですけれども、運転免許証の自主返納というものにつきまして、役場はそういったもの、これは警察なり、公安委員会等の関係だと思っておりますけれども、役場としては、そういった情報は何か持っておりますでしょうか。お教えてください。

●議長（森山木の実） 小林総務課長。

■総務課長（小林義之） 先日、交番署長さんからお聞きした状況によりますと、免許の自主返納につきましては、横ばい状況であるという話は聞いております。ただ、免許を更新しない高齢者もおられるということで、数字的な部分については、まだ把握はしていないということでした。

●議長（森山木の実） 佐藤議員。

◆3番（佐藤博一） はい。どちらかという警察なり交番の範疇（はんちゅう）で、町がその辺は自主的に返せ返せと告知広報する話ではないと思うのですが、今やはり一番話題となっている、もう池袋で起きた事件事故でさえも、だんだん忘れかけて行くのではないかなあというくらい新しい、今町長もおっしゃっていましたが重大事故が頻発しております。これが当町においては、子ども達が今度路線バス、またこれが他に通学バスでも通っている、そういった意味で、大量に輸送もしている。いろんな意味で、交通系のまだまだ事故が起きては困りますけれども、要因は含んでいるのではないかなと。そこで、今日ここで、先ほどの高齢者というところは、年齢で線を引くつもりはございませんし、まだまだ町長は青年だと思っております。そんな高齢者ではございません。それで、特に高齢者の皆様のご家庭でちょっと福祉的な移動手段は、ちょっと今日は質問しないで、先ほど自主返納、免許の自主返納というところで、横ばいまたはそのような情報はないということですのでけれども、よその自治体で自主返納をされた場合、町長さん名義で賞状を出すとか、かつてはどこかの自治体で、金一封まで出していたと。そうい

令和元年第 416 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録（2 日目）

ったようなどちらかというニュースになるようなものが、我々の耳にも入って来ておりました。当町においては、そう言った何か特典は有しているのかどうか、何かあったような気もするのですが、総務課長いかがでしょうか。

●議長（森山木の実） 小林総務課長。

■総務課長（小林義之） 町の今の事業の中では、特典というようなことで、賞状ですとか金一封を出すというような事業は、今現在ではありません。

●議長（森山木の実） 佐藤議員。

◆3 番（佐藤博一） そういう目立ったことをやれば良いというものではございませんし、一番は私が思うのは、ある程度車の運転は、特に免許の更新を後期高齢者過ぎてやる場合は、これはかなり厳密に認知症の検査されたり、実地運転したりしながらやられるそうです。そこである程度のお歳をしてきたら、自分は怪しい、運転がちょっと怪しいのではないかと思ひ始めたら、やっぱりお返しになったらいかがですかぐらいな、ソフト的なところを、そろそろ町あたりが言っていた方が良いのではないかなという気がします。また、高齢者のご自身の話は、近隣の近所の方の話を聞いてみますと、やはり 80 とか超えてらしても、車がないと生活ができない。高齢者になればなるほど、テレビでもやっていたけれども、運転に自信があるとおっしゃっています。まさにこれも午前中、同僚議員おっしゃったように過信、結構信濃町は交通の車が流れが良いものですから、自信が過信に繋がり、過信がいずれ事故かなというふうに気を付けなければというところでございます。で、車を 1 台所有するということが、私は良く母親とかにも、病院等の送り迎えをやるのですけれども、場合によったらタクシーを使ったらどうですかという話をするのですが、人様に聞いてもタクシーを使うと、例えばうちは古間の駅前ですが、信越病院から乗っていきますと、2000 円近くかかります。そこで後期高齢者ですと、初乗りのチケットは町からもらえてます。そうすると 1000 円ちょっとくらいで行けるのですけれども、その時の現金を、たとえ 1000 円でも 2000 円でも出すのがもったいないと思っているご高齢の方多いです。なのに普段、車持っている、例えば中古で軽自動車買って、それを何年か持ち続けたとすると、車の代金をご自分の使われる月数で割ったのが、1 か月掛かるし、保険も掛かるし、税金も掛かるし、ガソリンも掛かるのです。そういったことを全部ある程度一括払いなり、月払いなりされているので、いきなり毎日お金がお財布から出て行くという感覚がないものですから、非常に便利な道具です。でもこの道具は一步間違えれば、人を殺めてしまう道具だという意識はないです。運転の技量が落ちているにも関わらず、どんどん乗っていかれると、ということで、これは放送流れると思いますが、ある程度心配な方は、そろそろ免許を返そうという気になってはいかがでございましょうか。こういったことが、我々普段家庭で、収入と支出、収支バランスというのがあるのですけれども、家計簿付けていらっしゃる方もいると思いますが、車の家計簿、車計簿というのもあります。いくらお金かかって、た

令和元年第 416 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録（2 日目）

だ車は入ってくるのではありませんので、出るばかりです。やはりそういった月当たりのお金とタクシーなり、デマンドですと 300 円でやってくれますから、非常に良い制度、システムです。そういったものを、そろそろお考えになっていかないと、タクシーを月 2 回 3 回乗ったところで、車を維持するよりは安いんです。それで、デマンドをされに併用したら、もっと安くできます。そういうところを知らない方々が多すぎます。ということで、特にデマンドタクシー、これは交通協議会で請け負ってやっていらっしゃるわけですが、特にその産業観光課長に聞いてみたいのですが、デマンドタクシーの利用状況、何回か、この議会でもいただいていますけれども、そういった昨年度当たりの利用状況を、ちょっとお教えいただければと思います。

●議長（森山木の実） 丸山産業観光課長。

■産業観光課長（丸山茂幸） はい。デマンドタクシーふれあいコスモス号の利用者状況につきましては、平成 30 年度 4 月から 1 月までの利用者状況は、集計させていただいております。3 月までの集計については、ちょっとまだ集計ができてございませんが、その 4 月から 1 月の利用者状況を申しますと、平成 30 年度利用者数は 9026 名、一月当たり直しますと、902.6 人。これは平成、前期と同じ、同期を比べると 120.7 人、月当たり減少しているという状況です。あと利用者性別、男性女性の別ですが、女性の方が 83.3 パーセント。男性の方が 16.7 パーセント。利用者の年代別で申しますと、平均で 79.6 歳の方が利用されているということです。一応目的別ですが、基本的には帰宅、または通院という形でございます。以上です。

●議長（森山木の実） 佐藤議員。

◆3 番（佐藤博一） はい。今のデータありがとうございます。月当たり 900 人ぐらいはご利用になっていると。これは私のちょっと想像した数字よりは、結構皆さん使っているかなと思います。で、このデマンドタクシーなり、そういった物を町として、これは協議会というものを設立し、作りながら協議会の皆様の民意という形で事業を進めているわけですが、ただこれの、前の副町長にもお伺いしましたけれども、この協議会での、これ決定事項が、その後の動きに左右するというふうにおっしゃってましたし、いろいろ私も文句を言ったら、検討するところは答弁もいただいたのですが、一番はこの協議会自体が、役場職員によって事務方が、その辺の国交省との兼ね合いとか、バス事業者さんとのやり取りとか、ドライバーさんのやってらっしゃる事業者さん。そういったすべてを分かって、この事業なりを、陰で支えてくれていると思うのですよ。最後決定機関は、協議会ということになるのですが、これが運行して、平成 24 年から始めたことですから、8 年目にもう入っておりますので、そろそろこのデマンドなり、今日は、本来ならここに公共交通なりスクールバスが入ってきて、話がごっちゃになってしまうので、スクールバスの話は、今日はしません。ただこれ全体の町の交

令和元年第 416 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録（2 日目）

通政策というところで、非常に大きなところの話だと思うのです。これがただただ、高齢者なりの今事故が目立ちちゃって、じゃあ免許返しましょう。デマンドを拡充しましょう。なにか福祉タクシー、どうこうしましょうという全部考えて行くと、これやっぱりこれは、うちの町は過疎の町でございますし、別面では観光の町でもありますし、新幹線とか高速道路とか 18 号とか、利便性は逆に素晴らしく良い町だと思います。そういう所にいるからこそ、こういう交通政策というものを、きちっと町でお考えいただけないかなと思ひまして、町長その辺は、こういうデマンドタクシーなりが始まって、また学校も開校して 8 年目に入っていると、スクールバス等も合わせながら、多分すぐには答えは出ないんじゃないかなと思ひますし、そういったものを、町長として、考える時期ではないのかな、というようなお考えは、持っていませんでしょうか。

●議長（森山木の実） 横川町長。

■町長（横川正知） 経過年数はともかくとして、私今の人口の減少問題だとか、あるいは地域のコミュニティーの問題だとか、この信濃町全体の集落の現在のあり方といひますか、そんなことを含めた時に、本当に効率よく、さらに効率よくといひますか、その要望に応えられるような交通システムというものは、いったい何があるのかなあというふうにも、個人的には思うところがあるのです。ところが実際問題、これだけの行政面積が広くて、なかなかその具体的に、こう考えた時には、コストがかかり過ぎるとか、様々な問題も現実にはあるわけでありませう。要はこの地域の中で、どれだけ暮らし安さを具現化できるかという、さらにですね。そんなことを視野に入れる必要が、当然あるわけですが、この間も、実はちょっと余談ですが、「どうなの、このぐるりん号を出したらどうなの。」というような話も、北と南とわけてというような話も、ちょっと冗談めいでも言ったことはあるのですが、なかなか今のやっぱりコスト面だとか、人的な確保だとか、コース取りだとか、様々な問題があつて、ちょっと今は難しいなと、ただおっしゃられるように、今あるからこれで良いんだという発想ではなくて、将来の町づくりも含めて、どう将来展望をもって、考えていくかというのは、極めて大事な方向だろうというふうに思つております。

●議長（森山木の実） 佐藤議員。

◆3 番（佐藤博一） はい。ぐるりん号は大好きなので良く乗りますし、小布施の車もバスも大好きなので、ああいうぐるりん号とかは、どちらかというところいう山深いところではないし、小布施は狭い所だし、回りやすい。それで、向こうは雪が大丈夫なのでですね。あれは 4WD が無いというふう聞いています。うちはこのデマンドタクシーなり、バスは長野、長野の会社名は言えないですね。企業様のお古を、信濃町で使わせてもらっていると。この辺は過去のバス路線が走っていた時の町の出していたお金が、記憶では 6000 万か 7000 万ぐらいだったような気がするのですが、これがもうちょっと利便性を上げたことで、1 億円を超えてきていますよね。これが本当に、費用対効果で

令和元年第 416 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録（2 日目）

はありませんけれども、なんかどう見ても、事業者さんのためにやっているということと、あとは学校は非常に、我々大事な宝ですから、子ども達を運ぶ。ただ同じ子どもを運ぶにも、今日はやりませんと言ったのに、ちょっと触れますけれども、もっと方法があるのではないかなというふうに考えております。デマンドだけに言うと、産業観光課長にちょっとお伺いしてみたいのですが、先ほどの月当たり 900 人ぐらいの乗車、本当はその辺がもっと乗ってほしいと思っているのではないかなと思うのですが、町長おっしゃるように、我々もっと高齢化していきますし、人口も減少していく。そういった中で、例えばこのデマンドの利用キャンペーン的なものを張ってみて、もっと乗りませんかということ、住民の方にアナウンスするとか、例えば無料体験乗車キャンペーンみたいのをやってみるとか、デマンドというものを、これはこの柏原、例えば役場境界の方々、まず多分乗ったことないと思います。どこかほかへ用事で行かれる方は乗るか知らないですけども、メインとしたら、やはりこの町中へ集中して、皆様移動する手段になっているので、乗ってみませんかということ、ちょっとやってみるのはいかかかなと思うのですが、予算建てもできていないので、いきなりこんなことを言っても、また来年度以降、こういったようなことで同じ道具を持っていても、有効にどんどん楽しく使って行くようにしていかないと、なんかデマンドがどんどん、先ほどの年間 100 人ぐらい減ってきているということからいうと、先細るわけにはいかないの、まだ先の事も考えつつも、今のものを、もっと有効に試してみる。場合によったら、土日運行してみるとか、子どもも乗せてみるとか、やっぱりいろんなことをやって、協議会の会長さんに聞きたいのですが、これ観光客乗れないのですよね。お願いします。

●議長（森山木の実） 高橋副町長。

■副町長（高橋博司） はい。先ほど佐藤議員のご質問の中にもございましたが、ふれあいコスモス号につきましては、目的が高齢者の皆様の日常使い、買い物であったり、通院であったり、また、黒姫駅のご利用ということで、降車場所が定められております。お宅から降車場所までという形になっておりますので、逆に申し上げますと、そういうことによりまして 300 円という運賃を維持をしているというところがございます。今の降車場所につきましては、どちらかというとその観光客の皆様が向かわれるというようなところではございませんので、ふれあいコスモス号の目的とすると、観光客の方々に対応するのは難しいというふうに考えております。

●議長（森山木の実） 佐藤議員。

◆3 番（佐藤博一） はい。その辺はわかって質問もしたのですけれども、住民に限る的なところもありますし、かつてとある議員さんが、もっと増車して観光客にも開放したらどうですかみたいなことも言ったような気がします。ただそれに対応するものは、観光バスが黒姫野尻湖方面に 500 円で乗れるバスも、実際は運行しているし、タクシー事業者さんが、これは猛反対したというような経緯も分かっております。分かっている

令和元年第 416 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録（2 日目）

けど、もう少しこれを広くやる手立ても、また将来に亘ってお考えになったら、どうか
なと思っております。時間をこれに取り過ぎました。

もう1つ、実際ですね、これゴールデンウィーク中にあった話を聞いた、通告にもち
よっと書いちゃったのですけれども、タクシーの初乗り補助券の乱発事件なんて書いた
のですが、これは非常に由々しき事態が起きたと思っております。観光協会で本来なら手渡
しで、情報収集しながら手渡しする物を、協会さんが、ゴールデンウィークで特に忙し
いという理由で、窓口の外に積んで置いたということが情報として入ってまいりました。
で、これは観光客の方が、善意に解釈すれば、そのまま持って行かれて、自分で東京と
かどこから来たよとか、情報を入れて書いてくれながら乗ってくださる分にはと思うの
ですが、住民の方が、あれを利用した日には、もうぜんぜん話が変わってきます。あれ
は初乗りの700円ぐらいだと思っておりますけれども、金券の扱いだと思っておりますが、産業
観光課長、それに対して、観光協会に、何か指導はしましたでしょうか。

●議長（森山木の実） 丸山産業観光課長。

■産業観光課長（丸山茂幸） はい。今議員がご指摘いただいた件につきましては、信濃
町観光案内所のお話しですが、今年の4月から5月の10連休の観光客の入込状況と一
緒に今回のお話しについて、ヒアリングをさせていただきました。ご指摘のとおり通常
ですと、この観光タクシーの利用補助につきましては、町内に訪れる観光客、または町
内に別荘をお持ちの方の移動を補助し、また、交流人口の増加を図るという目的でござ
います。通常、観光タクシー券につきましては、受付簿に記入をしていただいて、カウ
ンターの方でタクシー券を手渡しをされているというご指摘のとおりなのですが、10連
休につきましては、受付簿の隣に、タクシー券を置いておいたということ把握してご
ざいます。その点につきましては、通常のやり方と違うということで、うちの方でも話
をさせていただいて、また、枚数につきましては、名簿と確認をしていただいております。
そういう指導をしてございます。

●議長（森山木の実） 佐藤議員。

◆3番（佐藤博一） はい。このチケットも、まさに税の投入でございますので、より厳
格にやっただけければと思います。また、知りうる限りタクシー会社のドライバーさ
んにも、マナーがちょっと欠けている面があると思います。観光客の皆様に対して、早
くチケットをもらって来いの、せかすようなところの場面を見たことがあります。そ
れは本来なら観光客の皆様から渡されて、やっと初めて効果あるものなのに、タクシ
ードライバーが早くもらって来いと言っているようなところを、黒姫駅前で見たとあり
ますし、また、しなの鉄道の職員に、このタクシーのチケットを要望されたというよ
うな話もありますので、これは取扱いに関しては、また観光協会等より慎重に協議の上、
運用していただければと思います。

次の質問に移ります。産業及び地域振興について、非常に漠然としていますが、その

令和元年第 416 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録（2 日目）

中の観光協会の運営について、過去にもたびたび観光協会、そういった話をして、住民の皆さんからもっと大局的な話をしなさいとは、お叱りは受けておりますが、気になったことだけ、ちょっと質問したいと思います。観光協会の実際、観光協会のその前に、日頃、町長がおっしゃっていらっしゃる、丸ごと観光地って、非常に聞いていて耳障りが良いです。すーっと入ってくる、丸ごと、丸という言葉が良い言葉なのですが、これは確かに信濃町はどこに行っても、農産物あり、おいしい野菜あり、食材あり、また 3 館にも代表されるような施設が点在しているし、また、小林一茶の生誕の地でもありますし、野尻湖もあると、どこに行っても春夏秋冬楽しめる、そういった意味で、町長は丸ごと観光地で、そこに従事している皆様も多いと思うのですが、この丸ごと観光地というのは、非常に聞いたところだけは良いのですが、それに対応するような施策というのは、町長どういうふうに考えてますでしょうか。

●議長（森山木の実） 横川町長。

■町長（横川正知） まあ、そういうことを、何て言いますか、目的を目指すために、昨年ですか、一昨年から 29 年に、観光審議会をお願いしたわけでありまして。その観光審議会が約 1 年ぐらいでしょうか。ご審議をいただいて、その丸ごと観光地も含めた将来の観光のあり方というものを提言として、答申と言いますか、いただいているわけがございます。この辺を、それぞれ今、細かに申し上げることは、ちょっと時間の関係もありますからできませんが、そのことを含めて、どう具現化していくかということ、これは行政だけではなくて、関係団体、関係者含めて、これから具体的に、どう行動として移せるかということが、次のステップになってこようかと思っております。ですからそのことを、これから互いに協議しながら、その一生懸命議していただいた結論でございますから、大事にしながらか進めて行くということが、まさにそういった事に繋がっていくだろうというふうに思っています。

●議長（森山木の実） 佐藤議員。

◆3 番（佐藤博一） （私じゃないところで、誰か携帯が鳴っているのですけれども、注意してください。はい、分かりました。携帯です。） そういう町長おっしゃる丸ごと観光地、重々わかっておりますし、また今の説明で理解できました。また、この丸ごと観光地という所で、自分なんか、度々道の駅とかに行き、いろいろ周りの景色とか様々農産物のこととか聞かれたりとか、結構尋ねられることあるのですけれども、住民が、もうちょっと参加できるような、よそで例えば議会のサポーターとかあるようなのと同じように、観光サポーターみたいなものを、作っていったら、これはその受け皿の観光協会さんなり振興局なりが、やっていく話かなとは思っているのですけれども、やっぱり我々この観光地に住んでいる者として、よそで昔は観光検定的なこともやったりとか、観光大使みたいなものをやったりもしていましたけれども、我々一人ひとりが大使であって、信濃町の情報をもっと知るべきだと思っております。我々が学ぶべき。我々議会

でも、議員会というのがありますので、そこで勉強会をやっても良いのですし、やはり自分の町を、よく胸を張って、信濃町出身ですということを言うわりに、じゃあいろいろ聞かれて知りませんなんて、恥ずかしくて言えません。農産物、もろこしがおいしいだけでは、今通らない。やはりどうしておいしいのかとか、どういう状況で作られているとか、一茶さんが、じゃあ今どうなのかとか、やっぱりこれは学校もしかり、皆さんこう少し勉強するような、町を上げてやれるような、なにか町の若手では、そういった話はあるのではないかなというふうに感じてはおるのですけれども、産業観光課長、そういったような、もう少し住民に、何かこう、パンフレットは当然あります。ああいったものも、例えば一軒一軒配ってみるとか、その配ったやつをまた親戚とか友達に送ってもらうとか、やっぱりいろんな手立てを考えながら、観光協会の例えば総会資料とかも見せてもらったのですが、いろんなところに広告等も出しております。ただ最後は、これやはり住民がいかに協力していくかというところが、これもう観光地の最たるものではないかなと思うのですけれども、産業観光課長さん、現場預かる者として、何か考えありますか。

●議長（森山木の実） 丸山産業観光課長。

■産業観光課長（丸山茂幸） はい。議員がおっしゃられるように、信濃町は観光が一つの大きな産業でございますので、住民の皆様の意識がとても重要になってくると思います。現在でも、野尻湖の周辺の観光を考える会とか、あと黒姫高原を良くしていく会、また、町内を花いっぱいにする会等、ボランティアの活動、住民のサポーターというような位置付けで、活動されている団体がたくさんございます。また、次期信濃町の長期振興計画の中でも、町民同士の対話を重視する中で、その中で町民同士が手を取り合い支え合う協働が生まれるという、対話と協働ということ、観光の中でも生かしていくということで、今後も啓蒙等を進めていきたいと考えております。

●議長（森山木の実） 佐藤議員。

◆3番（佐藤博一） はい。理解しました。今サポーターと申し上げたのは、特にこの一茶関連で案内人さんの会は、非常に丁寧にやっていると思います。今、課長のおっしゃられたように、様々な会がこの当町にはあり、その会を1つにこう束ね、束ねるといふ言葉悪いですが、横の連携なりをとられて、意識を高めて行ったら、もっと違うものができるのではないかと、ここの今日の質問の要旨に観光協会の運営について入れているのですけれども、まだその前段階の観光の話をしていたのですけれども、観光協会に、現実ざっくりですが、インバウンドで600万ぐらい流れて、運営費等補助金で1000万近く流れて、先般、総会がありまして、その足し引きやった最後の財産見たら、結構800万とか残っていて、これは良いなと思って見てたら、ところがどっこいかなり厳しい状態で運営しているなというのが分かります。財産が800万あるうち、建物の財産とかそういった物を引いていくと、ほとんどないのではないかなあと、

令和元年第 416 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録（2 日目）

で、結構借入れもしているのは、町からの3月時のあれ決算ですけれども、まだお金が8割の内、2割は入ってこない。これだけの町の観光をやっていく上で、あの予算ではぜんぜん足りないように思います。その割に観光協会さんの総会資料は、非常に頑張っているなというのが、私の印象です。新しく建物も、駅前案内所もやられましたし、せっかくああいう体制をとったにも関わらず、お客様の伸びとかは、産業観光課長どうなのですか。あの昨年夏で見て行くと、対前年で、いかがでしょうか。昨年度でも良いです。

●議長（森山木の実） 丸山産業観光課長。

■産業観光課長（丸山茂幸） はい。観光協会様の方で運営している黒姫駅前の観光案内所の窓口業務の状況ですが、昨年度は窓口で5396件、その他に電話、メールで2851件という対応をしてきていらっしゃると思います。それは情報発信事業ということになりますが、そのほかに収益事業ということで、レンタルサイクル等の事業を実施されております。以上です。

●議長（森山木の実） 佐藤議員。

◆3番（佐藤博一） そういう小さい数字を聞いているんじゃないんです。おおよそ例えば妙高市とか山ノ内町とか、皆さん観光地を抱えているとこの行政では、妙高では200何万とか、山ノ内だとかつては500万人来たとか、信濃町は一時80何万で、一茶生誕で92万くらい行ったとか、やっぱり100万人は、まだ行っていませんよ。そういったデータをやはり住民の方にもお伝えしながら、そういうのは例えば、道の駅のレジを通った数とか、いろいろ集計はされていると思います。最近のそういった直近で、何か良い情報はありませんかでしょうか。

●議長（森山木の実） 丸山産業観光課長。

■産業観光課長（丸山茂幸） はい。平成30年度の観光地の利用者調査比ということで、町で実施しているものがござります。年度ではなく、1月から12月までの集計という形で出させていただいているのが、直近の数字になります。観光地の入込みということで、延べ利用者数については99万人。1月から12月という形で利用してきてございます。比較の月が違うので、あれですが、平成29年度の入込が・・・すみません。前年度のちょっと比較が1月から12月ですので、ちょっと比較ができなくて申し訳ございませんが、若干増えているという形です。

●議長（森山木の実） 佐藤議員。

◆3番（佐藤博一） はい。わかりました。ありがとうございます。非常に今の99万とい

令和元年第 416 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録（2 日目）

う数字が、もう一人歩きするんですよ。ともう 100 万人手前じゃないですか。やはりそういうところで、観光政策なりというものを町長の音頭の元、丸山産業観光課長が各団体と協力しながらやれば、あと 1 万なんてすぐ行ってしまいます。というところで、また頑張れる要素ができたのではないかなど。この観光協会の中に、決算書ちょっと拝見していて気になったのは、前もこの議会で質問しているのですけれども、信濃観光さんという株式会社が入っております。協会で、今何か 100 パーセント出資していることになっているのですけれども、この 100 パーセント出資というのは、連結決算とかそういった必要性というのは、産業観光課長どうなのでしょうか。

●議長（森山木の実） 丸山産業観光課長。

■産業観光課長（丸山茂幸） はい。ご指摘の部分につきましては、信濃観光様は株式会社でございます。信濃町観光協会様は一般社団法人でございます。一般社団法人様のほうで出資している株式会社への部分につきましては、基本的には会社が違うということもありますし、連結決算につきましては、条件がございまして、有価証券報告書を提出している、また、大会社であるということが条件ですので、義務はないという形になってございます。

●議長（森山木の実） 佐藤議員。

◆3 番（佐藤博一） はい。大会社というところで納得しました。ただ気になってはおりますのは、同じ観光協会の職員が、信濃観光の代表なり、兼ねているというところの給与体系は、未だ気になっておりますので、今後調査したいなと思っております。そういったところで、先ほど申し上げた観光協会の決算書を見る限り、見かけだけはなんとなく上手くやっているようですけれども、現実問題は、お金の流れは非常に厳しい会社に見えます。これは町から補助金なり流している会社で、一般社団法人でございますので、町からお前やめろとも言えませんし、実は前も何回か申し上げていますが、平成 26 年の 5 月に、観光協会が一回ギブアップしています。その段階で、さあ困ったということで、この町の観光をどうしようかが出来たのが振興局です。これは平成 29 年 12 月の議会で、小林課長が答弁いただいておりますので、その議事録を見てもらえばわかります。この観光協会とこの振興局というもののあり方が、未だ何か、我々端から見ても、ぎくしゃくしているように見えます。そういった意味で、ずっと同じやり方で、これ観光協会にお金が出るのではなくて、先ほどいろんな町に、案内の団体さんとか、様々団体がございます。これをそろそろ一般化して、振興局に一本化してお金を流し、その中に振興局のメンバーに観光協会、商工会も入っております。特に観光部門に関しては、一本化した上で、今の予算よりも、町長にお願いしたいのですが、さらに予算を増やしていかないと、振興局は自主財源は相当もっております。駅そばとかみてみますと。やはり自主財源をもった所に、トータルでお金を流しながら、町の我々、サポーターになれと言うなら、いくらでもなりますし、やはり住民がそろそろ 1 つにまとまっ

令和元年第 416 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録（2 日目）

て、この町を売り込んでいくということをやっつけていかないと、もう 100 万人も手前でございまして、この 100 万を今度クリアすれば、まだまだよその町村には負けないだけの、うちは材料を持っております。中でまだまだいがみ合っているような話が、まだ聞こえるのですよ。ずーっとこの議員になってから、そんな話ばかり持ち込まれて、そろそろいい加減にしろというところがございますので、一緒になってみんなで目的を達成し、この町を良くしたいなというところで、この質問は終わって次にいきます。

最後ですけれども、佐藤教育長。教育長にご就任なさって、まだ 2 か月経過されただけでございまして、また高校の教育畑が長いということで、この一貫校をまずご覧になった時の子ども達、児童、生徒、印象、そういったものは、どのようにみられましたでしょうか。

●議長（森山木の実） 佐藤教育長。

■教育長（佐藤尚登） はい。お答えいたします。信濃小中学校についての印象と申しますか、感想ですけれども、私が着任以来、入学式であるとか、運動会といった行事、あるいは定例の打ち合わせのほか、つい先日学校で行われた、学習ソフトの先生方へのプレゼンテーションに立ち会ったりしております。そういうので多分 10 回弱ぐらいは、学校へ足を運びました。そこでの印象は、先輩たちが大変なご苦労を重ねて、新しいスタイルの学校を作っていただいたお陰で、私の目から見て、児童生徒は大変恵まれた環境とそれから、これも本当に実感しているのですが、県下でもトップ水準の行き届いた支援体制と申しますかね。そういった元で元気に学校生活を送っているなというのが、印象です。とりわけ印象的だったのは、入学式だとかあるいは運動会などの場面で、上級生が 9 年生ということになるんだと思いますけれども、最上級生が本当に入ったばかりの小さな下級生を優しく世話をする姿、これは通常の学校ではあまり見られない景色だと思います。幅広いその年齢層の子ども達が、共に生活をするというのは、近代の学校制度ができる前は当たり前な姿だったと思います。雪が解けて村いっばいに遊んでいる子ども達は決して年齢別、学年別には遊んでいたわけではないと思いますのでね。そういう意味では、信濃小中の子ども達というのは、より自然の、自然な子ども達の集団に近い形で生活しているのかなというふうに思いました。一方で、年々児童生徒が減って行くという、大変厳しい状況、これは残念ながら、当分変わることはないというふうに思います。そういうどんどん児童生徒が減って行く中で、集団としての子ども達の活力をどう維持していくのか、そして活力を維持し、ちょっと大げさに聞こえるかもしれませんが、人生を切り開いて行くたくましい力を、子ども達につけてもらうにはどうしたら良いのかというのが、課題であるかなというふうに思います。当然これは、学校とか教育委員会の力だけの力ではいかんともしがたいので、全町民の英知を結集して克服していかなければいけないというのが、学校を見ての印象ということでございます。

●議長（森山木の実） 佐藤議員。

◆3 番（佐藤博一） はい。ありがとうございます。その前に先ほどちょっとここでヒートアップして、観光協会と振興局に、なんかいがみあっているいい加減にしろ的なことを言ったことは、不適切発言ですので、取り消します。仲良くやってくださいという意味でございます。

今、教育長おっしゃられたこの2か月で、非常に良い所、課題等も見ていただけたなと。私にしてみると幼少期から、尚登さんと言って、親しい仲でございます。そういった仲はまた別として、佐藤教育長の今のご答弁いただいたような、柔らかい口調で、まだまだこれから住民の方に話かけていただきながら、また親御さんにもアピールいただいて、教育長ここにありきということ、ただそれは組織体の中での教育委員会またその中でもトップを務めていらっしゃると思いますので、そこは皆さんの中での合議したもので動いていただけるものと思います。我々私みたいに民間上がりで、過去の組織の経験を持つものと、教育畑でずうっと経験を積み重ねた方では、やはり教育畑の皆様のほうが、実績なり重みが全然違います。そういった意味で、佐藤教育長には今後大変期待したいと思えます。通告に、教育理念なんて、ちょっと偉そうなことを書いたのですけれども、何かこう1つ、今までやってみえて、これぞという1つ外せないものを持っていらっしゃるものがあったらお教えいただきたいなと思えます。

●議長（森山木の実） 佐藤教育長。

■教育長（佐藤尚登） 大変難しい質問なのですが、私達自治体の教育行政に携わる者が、依拠すべき根本原則というのは、教育基本法に明確に示されています。そこでは、教育は、人格の完成をめざし、平和で民主的な国家及び社会の形成者として、必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期すというふうに、明確に示されています。その上で教育基本法は学校教育、家庭教育、幼児期の教育、社会教育等について述べているわけですが、これを教育を受ける側の立場から言い換えれば、それが学校教育であろうと、あるいは先ほど申し上げたその他の教育であろうと、つまるところそこで学ぶ人たちがより充実した人生を送ることができるようになること。これが教育という営みの究極の目標だというふうに考えます。そのためいくつかの教育の場面はありますけれども、特に学校教育に対しては、一人ひとりの児童生徒が将来自立していくために必要な力、それは決して教科の学力にとどまるものではなく、例えば仲間と協力する力であるとか、あるいは社会の課題を解決しようとする意欲等を含めて、言葉の本来の意味で、生きる力を伸ばすことが期待されているのだろうというふうに思いますし、今まで思っていてやってまいりました。お答えになりますでしょうか。

●議長（森山木の実） 佐藤議員。

◆3 番（佐藤博一） ありがとうございます。午前中の答弁の中にも、憲法や教育基本法にのっとりというようなところも混ぜて、今もまた教育基本法の話もいただきました。

令和元年第 416 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録（2 日目）

そういった意味で、ただの先生ではないなど、法律も良く知っている先生だなというふう
うに感じ、これで質問を終わります。ありがとうございました。

●議長（森山木の実） 以上で、佐藤博一議員の一般質問を終わります。

本日の一般質問を終わります。お諮りいたします。本日の会議はこの程度にとどめ、
延会としたいと思います。これにご異議ございませんか。

（異議なしの声あり）

ご異議なしと認めます。よって本日はこれで延会とすることに決定いたしました。
念のため申し上げます。明日 6 月 6 日の本会議の一般質問は午前 9 時 45 分より開会
しますので、時間までにご出席ください。お疲れ様でした。

なおこの後、16 時 15 分から議員控室において、全員協議会を開きますので、遅れな
いようお集まりください。

（午後 3 時 47 分）